

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや
ちくさ

題字 黒野 貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 ☎763-5110
会長 黒須一夫
幹事 大口弘和
会報委員長 秋山茂則

ロータリーを楽しもう！
ENJOY ROTARY！

No. 21

1989~90年度 RI会長 ヒュー M.アーチャー

第363回例会 平成元年12月5日(火) 晴

- ◇ “君が代”
- ◇ “それでこそロータリー”
- ◇ 出席報告
会員 61名 出席 47名
出席率 77.05%
前回 11月28日 (修正出席率) 100%
- ◇ ビジター紹介 4名
- ◇ お誕生日祝福
安江君(11/18)、安江夫人(11/26)、西村夫人(12/6)、木全君(12/7)、宮尾君(12/10)
- ◇ ニコボックス
小牧 R C 河村 嘉男君 久しぶりに訪問しました。
水野 民也君、松居 敬二君 先週の F.S.M. のチャーターナイトのスライドに、何度も顔を出しました。
上野 保君 先週の F.S.M. のチャーターナイトのスライドの中に出てくるバナーは、私が作りました。
黒野 貞夫君 加藤 龍明さんに卓話をお願いしました。本日推薦入試で早退します。
和田 正敏君 父の葬儀の際、大変皆様にお世話になりました。
谷口 暢宏君 本日早退します。
安江 敏昭君 誕生日祝い。夫人誕生日祝い。結婚記念日祝い。
木全 昭二君、宮尾 紘司君 誕生日祝い。
西村 禎二君 夫人誕生日祝い。
- ◇ 大口幹事報告
1. 本日例会終了後、年次総会を開催いたしますので、全会員の方はそのままお残り下さい。
- ◇ 武内夫人挨拶
過日葬儀では、皆様お忙しいところをお見送り下さいまして厚く御礼申し上げます。
今日ガンは早期発見すれば治る病気ですので残念です。

どうか皆様もお体には十分お気をつけ下さい。生前は大変お世話になり、ありがとうございました。

◇ 和田君挨拶

先日父の葬儀に際しましては、会長はじめ皆様にご会葬、ご焼香を賜りまして厚く御礼申し上げます。若輩者ですが父の跡を継いでがんばりたいと思っておりますので、今後共よろしくお願い致します。

◇ 黒須会長挨拶

“武家の収入”

— 現代との比較 —

徳川時代の大名、旗本を現代の各企業の集団と考えると興味深いものがあります。

江戸時代の武家の給与は高禄者の知行取り(土地支配)と下級武士の蔵米取り(米支給)の2つに分けられるが、中期以後は諸藩では家臣の知行地を廃止して蔵米制にするのが一般的な傾向になってきました。

これで小給のものが何か村に分割された知行所を管理するのに負担がかかり、いきおい農民に対する課税も重くなった。そこで、その土地の支配権を藩の代官が握り、年貢を藩庫に集め、そこから知行に応じた禄米を支給する集中管理方式に変化しました。すでに現代のサラリーマンの原型をみるものであり、江戸時代の下級武士にはある意味で、サラリーマン化していたといってもよいでしょう。

100石取りの武士とはどのような格式をもつものでありましょうか、徳川幕府では100石取りは御家人の部類に入り、旗本のものはいくつか少ないが槍1筋の家であります。

100石の米のとれる土地を拝領した武士の収入を現代流に調べることも興味あることであります。

100石は250俵であり、しかし250俵もら

えるわけではありません。四公六民のきまりがあります。4割は自分の取り分、6割は農民の取り分である。だから100石取りは250俵の4割の100俵の米が、領主の収入とすることができました。

これを現代風に換算しますと、100俵は、400斗＝4,000升、玄米だと6,000キロ、現代の米価1キロあたり600円で360万円、12カ月で割ると30万円位になります。

すなわち月給、ボーナス込みで1カ月30万円位が100石あるいは100俵取りの収入となりました。

しかし、家つきで、野菜などが自給自足できるとはいえ、生活費は武士の体面を保つためにかかり、決して楽でなかったと推測されます。なお米はその時の相場によって、掛屋や札差で換金しました。しかし、物価の高騰により生活が困窮し、内職を行っていました。知行100石は蔵米100俵取りと同じ収入でありましたが、この時代は知行取りは蔵米取りより、より上位でありました。

現在、会社が大きくなればなるほど、従業員の数が増加するのと同じであります。

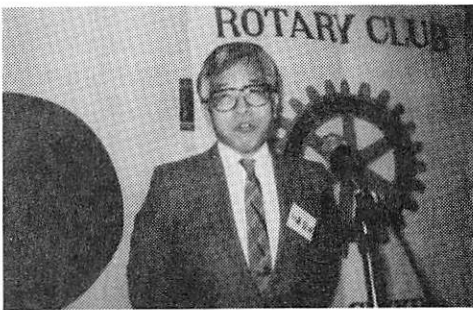
これを現代流に言えば200石で5名の社員、1,000石で21名の社員、5,000石で102名、1万石で235名、5万石では1,005名の社員をもっていました。

◇講演

“中国・江蘇省を回る”

中日新聞文化部記者

加藤 龍明 氏 (紹介 黒野君)



名古屋市博物館で開催の南京博物院名宝展に關係して9月末から10月中旬まで17日間にわたって中国・江蘇省の各地を巡回した。目的は展示物が発掘された現地を訪ねて、その当時の模様や現況を新聞で報告することであった。

ご存知のように中国では、夏の初めに学生を中心とした民主化要求運動が弾圧されるといふ北京・天安門事件が起きた。そうした政治的な不安が残っている時期の中国訪問だからそれなりの緊張感を持って出発した。本日は時間の制約があるので、その時の感想と南

京で再会した書家、尉天池さんについての二項目に絞って報告する。

天安門事件以来、中国へ渡る日本人は激減した。出発の時もまだ渡航自粛は解除されていなかった。大阪空港ではパスポート検査で検査官から「大丈夫か」と声をかけられた。私の受け入れ先が公の機関だから「心配ない」と笑って答えたものの、海外旅行の出国でこうした質問を受けたのは初めての体験で、やはりちょっとした緊張を覚えた。

しかし、幸いなことに出入国の起点になった上海空港をはじめ滞在中に不安を感じたのは、ただ一度の出来事を除いて、全くなかった。唯一の例外的な出来事は徐州駅で起きた。列車に乗る前に全乗客の手荷物の検査があり、危うく取材ずみのフィルムが取り上げられそうになった。徐州は交通の要衝で首都の北京に直結しているためだと思うが、同行の南京博物院の学者も驚くほどの厳しさだった。

書家の尉天池さんは南京師範大学教授で3年前に名古屋に長期滞在し、愛知教育大学で講義と実技指導をされた。愛知県の多くの書家と親交を結んでいる。現在は日本の国会議員にあたる全国人民代表大會常務委員に選ばれ、大変な多忙の身であるにもかかわらず、貴重な時間をさいてインタビューに応じてくれた。尉さんは書を通じて愛知県と江蘇省、名古屋市と南京市、そして日本と中国の友好が促進されることを熱望していた。

今週の言葉

“いつも心に優しさを”
(いつも心に優しさを持っている人は
顔がいい)

永井 正義

“朝に道を聞けば夕に死すとも可なり”
(論語)

西川 豊長

◇例会変更のお知らせ

名古屋西R C 12/28(日)忘年家族会の為、
12/25(月)PM 5:00より

名古屋北R C 12/29(金)休会

◇次回例会(12月12日)

講演 “海外へ出た芭蕉”

耕・KOポエトリーアソシエーション会長

加藤 耕子 さん (紹介 大谷君)

◇次々回例会(12月19日)

年末会員・家族懇親会

愛知厚生年金会館にてPM 6:00より